

「靈魂と幽魂」

人は體を持ち、心即ち精神は神に通じ、心と神と一體になるだけの靈力を与えられる素質がある。この故に靈力を与えられると人は大きく活躍する。死ぬことは體が亡くなるだけで、その人の靈魂れいこん(正しくは幽魂ゆうこん)は不滅である。靈の中には四魂、即ち荒・和・幸・奇の四魂がある。四魂が完備して靈という。四魂の働きは靈の働きである。その働きを人の精神できわめることが靈たましいという。人は生まれながらにして魂を天賦的に授けられて肉體を擁護するが、精神上するにつれて靈を招いて靈と魂との陰陽が心の中に一體となって活動する。

靈は総て宇宙靈界に属しているもので、人間が宇宙靈になりきることはない。體を持った人間はあくまで體的世界に属するもので、靈になりきれものではない。體を持った人間はあくまで體的世界に属するもので、靈になりきれものではない。実際に靈を身に修めて靈魂完備することはない、というのが本当であるが、現界では靈魂という言葉をごく当たり前に使い慣れているので混同し易い。眞の靈の尊さを知ることが大切である。靈魂は幽魂と呼ぶのが本当である。

幽魂が肉體を去れば、あの世に逝く。あの世に逝くとは神世である。靈界も幽界も神が造られた世なる故、神世という。神は人を地上に造り、死後も幽魂となって活動する。死んで幽界へ逝く時は、魂は人の目に見えない精神の體である。その精神的の體と修行によって靈が一結した時を靈魂という。幽魂から靈魂に進む修行は容易ではなく、大生命の教により淨化して幽界・中幽界を経て靈に至るまでの道は、至貴至尊の修行の道である。